

病いの経験と語り：分析手法としての ナラティブアプローチの可能性

カナダ・カルガリー大学のアーサー・フランク (Arthur W. Frank) 先生をお迎えして
公開シンポジウムを行います。

フランク先生は

『からだの知恵に聴く 一人間尊重の医療を求めて』(日本教文社)

『傷ついた物語の語り手 ー身体・病い・倫理ー』(ゆみる出版)

の訳書やその他多くの著作で知られ、ポストモダン的人間観に基づく医療社会学を切り開いて
きた存在であり、今なお第一人者です。

この8月にご自身三度目となられる来日の機会に公開シンポジウムを行いたいと思います。
今回はフランク先生ご自身に分析方法としてのナラティブについてご講演いただき、ついで3人の
大学院生による研究発表を行います。

暑い夏。京都でナラティブについて考える一日を過ごしてみたいはいかがでしょうか。



【経歴】アーサー・フランク

プリンストン大学、ペンシルヴァニア大学で学び、イエール大学にて社会学の博士号 (Ph.D.) を取得。現在、カルガリー大学社会学部教授。専門は医療社会学。

日時：2011年8月28日(日) 13:30～16:30 (開場 受付開始 13:00)

会場：立命館大学衣笠キャンパス 創思館1階 カンファレンスルーム

京都市北区等持院北町56-1

アクセスマップ URL http://www.ritsumei.jp/accessmap/accessmap_kinugasa_j.html

キャンパスマップ URL http://www.ritsumei.jp/campusmap/map_kinugasa_j.html

主催：立命館大学グローバル COE プログラム「生存学」創成拠点、立命館大学生存学研究センター

共催：立命館大学人間科学研究所、立命館大学大学院先端総合学術研究科

【プログラム】

13:30～13:40 開会のごあいさつ 立岩 真也 (立命館大学グローバルCOEプログラム「生存学」創成拠点リーダー・立命館大学大学院先端総合学術研究科教授)

13:40～15:10 基調講演 Arthur W. Frank 氏 (カルガリー大学社会学部教授)
"Holding One's Own as an Art of Living: Reflections on Companion Stories and Narrative Analysis"
通訳：有馬 斉 (東京大学大学院医学系研究科特任助教)

15:20～16:20 シンポジウム

【話題提供者】大野 真由子 (立命館大学大学院先端総合学術研究科)

『想像できない痛みを生きる — 複合性局所疼痛性症候群 (CRPS) 患者の病いの語り』

大谷 通高 (立命館大学大学院先端総合学術研究科)

『「被害」の語り、「病い」の語り。その異同について考える』

赤阪 麻由 (立命館大学大学院文学研究科)

『病いの語りが生産される場と関係性 — 多重なセルフの語りから』

【指定討論者】Arthur W. Frank 氏 サトウタツヤ (立命館大学文学部教授)

16:20～16:30 閉会のごあいさつ 松原 洋子 (立命館大学大学院先端総合学術研究科教授)

司会：基調講演 / 日高友郎 (立命館大学大学院文学研究科)・シンポジウム / 福田茉莉 (岡山大学大学院社会文化科学研究科)

※フランク教授の講演や討論は英語で行われますが逐次通訳の準備がございます。シンポジウムの発表は日本語で行われます。

入場無料 【定員130名】事前申込要

※ 電子メールにて、件名を「アーサー・フランク国際シンポジウム申込み」とし、
本文に「ご氏名・ご所属等・ご連絡先 (E-mail アドレス) をご記入の上、ars-vive@st.ritsumei.ac.jp まで送信してください。

※ 駐車スペースがございませんので、ご来場の際は公共交通機関をご利用下さい。

本企画は、平成23年度において、厚生労働科学研究費補助金(難治性疾患克服研究事業)、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「大学を模擬社会空間とした自立支援のための持続的対人援助モデルの構築」プロジェクトの研究成果として、広く社会に発信するものです。

お申込先・
お問い合わせ先

立命館大学生存学研究センター 事務局

〒603-8577 京都市北区等持院北町56-1 Email: ars-vive@st.ritsumei.ac.jp TEL: 075-465-8475 FAX: 075-465-8245